

平成29年度 第1回 富山県野生鳥獣保護管理検討委員会 議事録

- 1 日 時 平成29年6月5日(月) 13時30分～15時00分
- 2 場 所 富山県民会館611号室
- 3 検討事項

(1) 富山県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画について

- ・平成28年度事業の評価及び評価方法について
- ・平成29年度事業の計画内容について

(委員)

県内には5地区のイノシシの計画があるが、氷見市に被害が頻発している。実態調査を含め、エリアを考えていただきたい。

(委員)

捕獲従事者の体制は16名になっているが、この人数で対応できるのか。氷見市も捕獲数が多い場所なので、もう少し増えないか。今、狩猟者は何人ぐらい入っているのか。

(事務局)

この捕獲従事者16名の内訳は、猟友会の方が10名、ねいの里の方が5名、県の嘱託職員が1名で合計16名。全員が狩猟免許を所持しており、また猟友会の会員となっている。

育成を含めて実施しており、本格的な捕獲まではできない状況である。

(委員)

巻き狩りは、その日のメンバーで1頭から2頭をとることを最大の目的としている。しかし、最近では、自分がヒーローにならないとおもしろくないような若い人もおり、彼らに狩猟を教育するのは非常に難しい。また、県猟友会の会員は大半が65歳以上、有害駆除に参加している人も70歳になれば活動が困難になる。

(委員)

指定管理鳥獣捕獲等事業の評価表の中には、県が独自に目的としている部分を評価するところがなく、1行しか書いてない。県独自の目標については、県独自の評価をしてはどうか。

(事務局)

国の様式では何頭を捕まえるという目標に対し、何頭捕まったということだけを評価指標としているため、富山県の人材育成を重要視しているやり方と合致しない。評価表の記載事項について再検討する。

(2) 管理計画の評価手法について

- ・ニホンザル、カワウに関すること

(委員)

ニホンザルに関しては、改善案等が少ししか書いていない。全体を見ると新しい5か年計画がスタートする段階というのも見えにくく、わかりづらい。

(事務局)

この改善案等については、ワーキンググループでは多くの資料を提供していたが、今回は内容を簡潔にしたもの。今後は、具体的な参考資料とすることを検討したい。

(3) ツキノワグマ及びカモシカワーキンググループの検討事項について

- ・数の調整捕獲に関すること
- ・市町村年次計画（捕獲等実施）に関すること

(委員)

猟友会として、クマ対策は、市街地に出てきたクマから住民を守ることと秋田県のようにクマが生息する山間部へ行った人を守ることでは、区別して考えないと違和感がある。

(委員)

富山県のクマの現状は、中山間地域で冬眠し、居ついている。それをふまえた対策をとっていくべき。

(委員長)

同感である。

(4) カラス対策基本指針の見直しと今後の対策について

(委員長)

カラスの話もあったが、まだ抽象的だ。我々が積極的に関与していかないと、野生動物の全体の管理は難しく、放っておいていいという状況ではない。

異議がなければ、審議事項は、よいということにしたい。

(委員長)

野生鳥獣対策は、これから人口減少が進んで、富山県も含め全国的に大きな問題となる。

県の野生鳥獣に関する方針を検討するため、我々がいるということが、よくわかった。これからも協力しながらやっていきたい。

(了)